

京浜急行の駅名の歴史

2016.10.23.

T.Kobayashi

昔の駅名 →→		次にかう変わり	→→現在の駅名		補足説明
			泉岳寺	せんがくじ	都営地下鉄との接続点として昭和 43 年 6 月に開業した駅
品川	しながわ		品川	しながわ	京浜電気鉄道の高輪への延伸でできた高輪停留所が始まり (以下北品川の項参照) 東海道最初の宿場町で、落語にも登場するが数々の遊興施設があった 品川の中にも北品川と南品川があったらしい
北品川	きたしながわ		北品川	きたしながわ	京浜電気鉄道の品川駅はここにあった 大正 13 年に一時横浜寄りに移転 大正 14 年高輪まで延伸して品川駅が新設されたことで北品川となった
北馬場	きたばんば	北馬場・南馬場	新馬場	しんばんば	二つの駅は、目黒川を挟んで向かい合っていた 昭和 50 年の高架化工事にあたり、二つの駅をつないで北馬場・南馬場という 暫定駅を作った 工事完了後、暫定駅をそのまま新馬場とした 二駅のホームを接続したままなのでホームが長い そもそもの地名の由来は、幕府公用の旅人に対して「一日馬百匹・人足百人」 を無償で提供することが義務付けられ、その馬小屋があったことによる
南馬場	みなみばんば				
青物横町	あおもよこちょう		青物横丁	あおもよこちょう	江戸時代に農民が野菜などを持ち寄る市が開かれていたことが地名の由来 らしい 横町が横丁に変わった理由は未調査
鮫洲	さめず		鮫洲	さめず	昔は鮫浜・鮫頭崎(鮫洲崎)などと呼ばれ、大きく海に洲が出ていた 町名としての鮫洲は消滅したが、鮫洲と立会川の間には鮫浜小学校がある
濱川	はまかわ				◆廃止 町名としての浜川は消滅したが、鮫浜小学校のやや南に浜川中学校が現存
立会川	たちあいがわ		立会川	たちあいがわ	その昔川を挟んで小競り合いが合った(太刀会)、鈴が森刑場で関係者が立 ち会う場所(立ち合い)、中延の滝合を流れていた川(滝合川)など諸説あ るが、いずれも定かではないらしい
鈴ヶ森	すずがもり				◆廃止 海岸線の一本松近くの神社に、振ると音がする鈴石があったのが地名の起源 八百屋お七などで有名な江戸の南側の刑場があった(北は小塚原) 間抜けな追剥が登場する落語「鈴が森」ではかなり寂れた地になっている

八幡	やわた	大森八幡	大森海岸	おおもりかいがん	京浜電気鉄道大森・六郷橋間開通にともなうできた八幡駅が始まり後に品川延伸・大森支線廃止などの動きの中で海岸駅に改称、本線上の二代目海岸駅などの曲折を経て現大森海岸駅に至った 昭和 30 年頃まではこのあたりが海岸線だったことを示す今や貴重な駅名
沢田	さわだ	学校裏	平和島	へいわじま	開業当時の駅名は沢田だったが、駅前に学校ができたことで学校裏と変わった（寄木小学校・のちに大森第二小学校・平成 14 年閉校） 昭和 14 年に始まった埋め立て事業が太平洋戦争で一時中止となり東京捕虜収容所ができた 終戦後には東京裁判の戦犯の一時収容所にもなった 平和祈願の思いを込めて昭和 36 年に「平和島」と改称
山谷	さんや	大森山谷	大森町	おおもりまち	明治 34 年大森・六郷橋開通時に開業、品川延伸により線路も新設されて大森山谷と名を変えた 昭和 24 年に廃止したが、昭和 27 年に大森町として再開した
梅屋敷	うめやしき		梅屋敷	うめやしき	菓の販売と梅見で有名な商家があったことから、これを梅屋敷と言った梅の名所としては名高い所だった
蒲田	かまた		京急蒲田	けいきゅうかまた	蒲田と言う地名は奈良・平安時代にすでに存在していた。泥深い田を意味する言葉ではあるが、正確な地名の由来は明らかではないらしい
出村	でむら				◆廃止 仲六郷一丁目 NIC ハイム京浜蒲田第二マンションの北西角あたりにあった高架化により昔の軌道の後はもう残っていない 出村商店街と言う名が残っているらしい 空襲により被災して休止駅になり、後に廃止になった。
雑色	ぞうしき		雑色	ぞうしき	地名の起源は、武家屋敷などで雑役を担う職人（雑色）を調達する場所だったという説があるが定かではないらしい 今では地名としては残っておらずこの駅名だけが残っている
六郷	ろくごう	八幡塚			◆廃止 六郷という地名のいわれも諸説あるが定説はないらしい 古代の資料にも記されているので歴史は長い
六郷堤	ろくごうづつみ		六郷土手	ろくごうどて	開業当時は現在の位置よりやや品川寄りにあった 鉄橋の架け替え工事・踏切立体化などにより現在の位置になった 現在の駅は河川敷の緑地の縁にある 多摩川の流れも開業当時とは異なると思われる

川崎	かわさき				◆開業当時の川崎駅（停車場）は六郷橋にあったが 後に廃止（下欄へ）
		川崎	京急川崎	けいきゅうかわさき	六郷橋にあった駅が現在の場所に移動した
		八丁畷	八丁畷	はっちょうなわて	東海道の川崎宿から田圃道が一直線に八丁続いていたことからこの地名が生まれた 南武線支線との乗換駅だが京急は各駅停車しか止まらない
		鶴見市場	鶴見市場	つるみいちば	付近に海があったので海産物を中心とした市場が開かれたのが地名の由来 市場へのアクセスとしてこの駅ができた
鶴見	つるみ	京浜鶴見	京急鶴見	けいきゅうつるみ	源頼朝が鶴を放ったのが地名の由来と言う説があるが、この時代にはもう鶴見郷という郷が存在したという説もあり定かではない
		総持寺			◆廃止 曹洞宗総本山諸嶽山総持寺へのアクセスを目的に作られた停車場だった 隣の鶴見駅との間は僅か 600m程度だった
花月園	かげつえん	花月園競輪場	花月園前	かげつえんまえ	花月園とは、新橋の料亭「花月」のオーナー平岡広高が作った公園で 子どもの遠足や家族の憩いの場として愛用されたが昭和 21 年に閉園になり 跡地に花月園競輪場ができた（競輪場は平成 22 年に閉場）
		生麦	生麦	なまむぎ	江戸時代までこのあたり一帯は麦畑が広がっていたことから地名が誕生 1862 年島津久光率いる軍勢の行列と四人のイギリス人の騎馬の列がはちあわせになり、トラブルになった生麦事件の現場はこの駅の近くにある
		新子安	京急新子安	けいきゅうしんこやす	明治 43 年開業（JR 新子安駅は昭和 18 年開業）
子安	こやす		子安	こやす	子安という地名は、東福寺（子安観音）から来たもの 明治 38 年開業の駅
		新町	神奈川新町	かながわしんまち	大正 4 年開業時の駅名は新町だった
中木戸	なかきど	仲木戸	仲木戸	なかきど	江戸時代に将軍家の宿泊場所として神奈川御殿ができて、この地に警護所（木戸）があったのが地名の由来 200m歩けば並走している JR 東神奈川駅 なのに異なる駅名とは？
神奈川	かながわ				◆廃止 昭和 5 年に廃止し（以下下欄参照）
反町	たんまち	青木橋	神奈川	かながわ	開通当時からあった反町駅 昭和 5 年に移転して青木橋と改称したが 同年（すぐに）神奈川に改称した 反町という地名の由来は諸説あり定かではないらしい 青木橋は新橋・横浜間鉄道開通時に切り通しにかけられた日本最古の跨線橋

横浜	よこはま		横浜	よこはま	明治5年の新橋・横浜間鉄道開通時の横浜駅は桜木町にあった 大正4年高島町に移転 関東大震災で焼失し、昭和3年現在地に新設移転 昭和5年京浜電気鉄道が開通して横浜駅に参入
戸部	とべ		戸部	とべ	戸部民部と言う人が住んでいたことが地名の由来とのことだが、 何ゆえあってこの人の名が地名になったのかははっきりしないらしい
日ノ出町	ひのでちょう		日ノ出町	ひのでちょう	野毛山の麓、東には横浜の港が広がる 地図を見ると地名の由来がわかる
黄金町	こがねちょう		黄金町	こがねちょう	昭和5年に湘南電気鉄道が開業した時、浦賀・逗子方面への始発駅だった 古代中国の哲学書「淮南子」の中の「清水有黄金龍淵有玉英」からとって町 の名を黄金町としたそうだが、経緯はわからない 大岡川と中村川に挟まれた埋め立て地には縁起を担いだ地名が多い
南太田	みなみおおた		南太田	みなみおおた	江戸時代には太田村と言い、大岡川河口の入江に面した農村だった 今では「太田」という地名は南太田駅として残っているだけ
井戸ヶ谷	いどがや		井戸ヶ谷	いどがや	窪地になっていて、井戸が有りその周辺に集落が形成されたのが由来
弘明寺	ぐみょうじ		弘明寺	ぐみょうじ	隣接する場所に弘明寺観音があることで駅名にこの名が付いた
上大岡	かみおおおか		上大岡	かみおおおか	古代は大賀郷と言われた地、これが転訛して大岡となったという説が有力
屏風ヶ浦	びょうぶがうら		屏風浦	びょうぶがうら	海に迫る背後の山が屏風を立てたようだということから源頼朝が命名した との言い伝え ペリーが二度目の来訪時にミシシッピーに似ていると記述
		杉田	杉田	すぎた	小田原北条氏の時代に戦に出る時に東漸寺の杉の木に軍旗を立てたことか ら旗立杉と呼ばれ、地名にも杉が付いた
		湘南富岡	京急富岡	けいきゅうとみおか	昭和38年に京浜富岡と改称、昭和62年に京急富岡と改称
		谷津坂	能見台	のうけんたい	開業当時は大日本兵器産業富岡工場の従業員の足になっていた 戦後工場 がなくなり利用客が激減したが、昭和30年代の宅地開発により盛り返し、 江戸時代から知られた景勝地能見堂からとって能見台と名が付いた 駅前にある坂が谷津坂
金沢文庫	かなざわぶんこ		金沢文庫	かなざわぶんこ	北条実時が金沢郷に作った武家の文庫(図書館) 後に衰退したが伊藤博文 らにより復興が図られ今は神奈川県立金沢文庫として残っている
金沢八景	かなざわはっけい		金沢八景	かなざわはっけい	中国の瀟湘八景にちなんで作られた八つの景勝地 洲崎晴嵐・瀬戸秋月・ 小泉夜雨・乙舳帰帆・平潟落雁・野島夕照・内川暮雪・称名晩鐘

追浜	おっぱま		追浜	おっぱま	浦郷村と呼ばれていたが、大正 5 年に村の東端の追浜（おいはま）に海軍航空隊が置かれて一躍有名になった 北条時政らに謀反を起こされた源頼家が追っ手に追われて逃げた浜ということから追い浜という地名が誕生 追い浜が追浜（おっぱま）に変わった理由を調べてみたがわからなかった
湘南田浦	しょうなんたうら		京急田浦	けいきゅうたうら	昭和 38 年に湘南田浦から京浜田浦に改称 昭和 62 年に京急田浦に改称 手浦が転じて田浦となった説が有力らしい
軍需部前	ぐんじゅぶまえ		安針塚	あんじんづか	海軍軍需部があることでこの名が付いたが、昭和 15 年戦時色が強くなり、その存在を隠すために 三浦按針（ウィリアム・アダムス）にちなみ按針塚と変えた 後に安針塚となったが経緯は不明
逸見	へみ		逸見	へみ	トンネルが連続して三浦半島の地形がよくわかる駅
横須賀軍港	よこすかぐんこう	横須賀汐留	汐入	しおいり	軍港があることでこの名が付いたが、軍需部前と同じように、その存在を隠すために昭和 15 年に横須賀汐留と改称 昭和 36 年に町の合併で現駅名に
横須賀中央	よこすかちゅうおう		横須賀中央	よこすかちゅうおう	埋立地の開発が進み海軍基地・製鉄所などで明治以降発展を続けてきた
横須賀公郷	よこすかくごう	京浜安浦	県立大学	けんりつだいがく	開通当初は横須賀公郷と言ったが昭和 38 年に京浜安浦と改称（後に京急安浦） 平成 16 年に神奈川県立保健福祉大学ができて現在の駅名に変わった 公郷という地名の由来については色々調べてみたがよくわからなかった
横須賀堀内	よこすかほりのうち		堀ノ内	ほりのうち	昭和 17 年久里浜線開業によりこの駅が分岐駅になった
鳴神	なるかみ		新大津	しんおおつ	横須賀高等女学校の最寄り駅として昭和 17 年にできたが、駅名は日本軍がキスカ島を占領したのを記念してこの島の日本名（鳴神）を採用した 昭和 23 年に新大津と変えた
昭南	しょうなん	湘南井田	北久里浜	きたくりはま	昭和 17 年太平洋戦争で日本軍がシンガポールを占領したのを記念してこの島の日本名（昭南）を駅名にした 昭和 23 年に湘南井田と変え、昭和 38 年に北久里浜となった
久里浜	くりはま	湘南久里浜	京急久里浜	けいきゅうくりはま	鎌倉時代には栗浜、江戸時代には久里浜という地名が存在した 「くり」は小さな岩礁を意味する言葉なので海岸の形状ゆえの地名だろう 車窓から J R 横須賀線の終点久里浜駅を見下ろす事ができる
野比	のび		YRP 野比	YRP のび	久里浜線の延伸計画の第一段階として昭和 38 年に開通し開業 平成 9 年にできた国際的な電波・情報通信技術開発拠点「横須賀リサーチパーク」により YRP 野比と改称

京浜長沢	けいひんながさわ		京急長沢	けいきゅうながさわ	長沢川に沿った「細長い低地」が長沢という地名の由来らしい 駅の北側にそびえ立つのは富士山（海拔 182.9m）
津久井浜	つくいはま		津久井浜	つくいはま	いちご・ミカンなどの観光農園と武山を中心としたハイキングを主な売りとして、海水浴を売りとしていた三浦海岸との棲み分けがされていた
三浦海岸	みうらかいがん		三浦海岸	みうらかいがん	昭和 41 年開業 首都圏の海水浴客を一手に引き受けた時代もあった
三崎口	みさきぐち		三崎口	みさきぐち	当初は油壺まで延伸する計画だったが、環境保全その他様々な事情により 昭和 50 年の三崎口までの開業に止まり計画は取り下げられた 海拔 33m、京急で一番高いところにある駅

<あとがき>

京浜急行に初めて乗ったのは、もう 50 年以上前になるだろうか
個人的に深い関わりを持つようになってからでも 15 年以上になる
あのなにやら奇妙な音を発して走る電車、やたらに駅が多い電車、変わった駅名が目立つ電車・・・
などなど様々な印象を残してくれたおかげで、今になって色々なことが気になり始めた
そして、何度か乗ってみた「各駅停車の旅」で我が目で見た数々の映像

京浜急行の歴史は路面電車の時代に始まるので、時代を遡るとかなりの数の停留所が出てくる。
すべての停留所を並べて今日につながる流れをまとめたら面白いとは思いますが、紙面の関係でそれは諦めて
路線と駅の形が現在のものに近くなった頃の駅名をベースに纏めてみた。

「京浜電気鉄道・湘南電気鉄道などの時代を経て鉄道が延びていく時代」
「軍事設備との深い関わりを持つ時代」
「終戦・復興の時代と高度経済成長に向かう時代」
三つの時代の色合いが明瞭に見えてくる「京浜急行の歴史年表」という感じがした

以上

<参照資料・参考情報>

京浜急行路線図・駅案内情報（ホームページ）
京急の鉄道路線・駅・車両などに関する書籍多数（書籍名は省略）